



## 70年の歴史と 伝統の重み

### 氷見市立灘浦中学校



#### 〈校区の概要〉

校区は、県北西部に位置し、石川県七尾市と隣接している。海や緑豊かな田畑・山間地が広がり、灘浦定置網を中心とした漁業、長坂の棚田や灘浦みかんで有名な農業、温泉旅館等の産業が盛んである。また、富山湾最大の虻が島や大境洞窟等豊かな自然と史跡に富んでいる。

能越自動車道灘浦ICから七尾ICが開通したことから、県外からの旅行者や海水浴客が増加し、特に学校前のコースタル・コミュニティ・ゾーン（CCZ）には夏の期間、県内外から海水浴客が訪れる。

#### 〈学校の概要〉

本校は昭和22年、新しい教育制度の制定に伴う学制改革により、宇波村女良村学校組合立灘浦中学校として設立され、70年目を迎えた。

昭和24年に制定された校章の三つの山形は、校区の宇波・女良地区の協力と、有磯海を隔てて眺める霊峰立山を象徴している。また、それらを結ぶように配した波は、海のように広い知性を養う願いが込められている。

昭和26年木造二階建ての校舎が落成し、昭和62年に現在の校舎が完成、築30年経過した。

その間、地域ぐるみの生徒指導研究委託校や氷見市環境教育研究指定校等、これまでの研究を継続・実践し、現在に至る。

また、かつての科学クラブは日本学生化学賞に4度入賞し、女子バレーボール部が北信越大会3年連続出場（内1回は3位入賞）、野球部や卓球部は県選手権大会に出場するなど、学習面・運動面共にバランスのとれた生徒の育成に力を入れて日々の教育活動に取り組んできた。

近年、少子高齢化の影響で生徒数は激減し、現在、生徒数は29名、3学級の小規模校である。

平成28年度をもって閉校となり、平成29年4月からは隣の北部中学校と統合することになっている。

#### 〈本校の教育〉（特色ある活動）

##### ○朝学習・読書タイムの実施

始業前の10分間には、朝学習（月～水）と読書タイム（木・金）を位置付け、学習内容の充実や基礎的・基本的な知識及び技能の定着と読書への意欲付け、習慣付けに努めている。

##### ○全校生徒で取り組む学校行事

本校は、全校生徒数が29名と少ない。そこで、運動会や学習発表会、卒業を祝う会等においては、縦割りによる活動を実施している。3年生のリーダーを中心とした学校行事は、全校生徒が所属感や連帯感を味わう機会となっている。また、準備や後片付け、企画・運営を生徒の手に委ね、自主性を育てるようにしている。

##### ○ランニングタイムの実施

部活動前のランニングタイム（10分間走）を校時表に位置付け、体力の向上を図るとともに、一人一人に具体的な達成目標（周回数や目標の人について走るなど）をもたせ、継続することの大切さを学ばせるようにしている。運営は、教師の指導の下、生徒会の委員会を中心に生徒が自主的に行うようにしている。また、月1回程度の記録会を行い、取組を評価させている。

##### ○よりよい伝統を受け継ぐ生徒会活動

生徒会では毎年7月上旬に、近くの海岸周辺（CCZ）の環境美化活動と、下旬に虻が島清掃を行っている。この清掃活動は、先輩から受け継がれた伝統であるという誇りや、地域の一員として地域に奉仕することの喜びから意欲的な取組となっている。

##### ○小中連携教育の実施

挨拶運動、環境美化活動等、小中が連携して行う活動を計画的に行っている。また、校区小学校への乗り入れ授業が円滑に実施できるよう、時間割を工夫して、年間を通して連携教育を進め、中一ギャップの解消を図っている。